

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 54人

② 算数 54人

5 留意事項

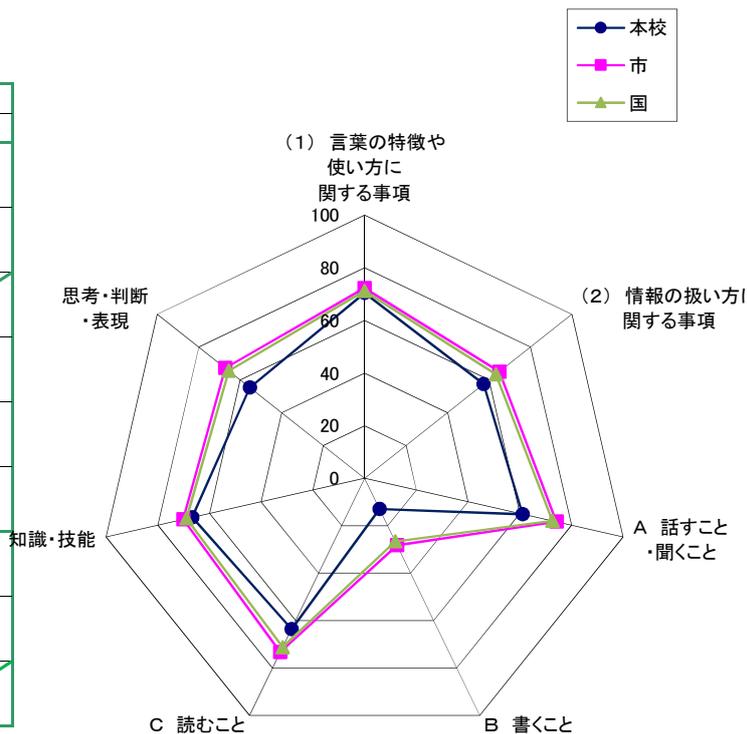
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.4	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	57.4	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	61.1	74.2	72.6
	B 書くこと	13.0	28.2	26.7
	C 読むこと	63.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	66.7	70.2	68.9
	思考・判断・表現	55.3	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

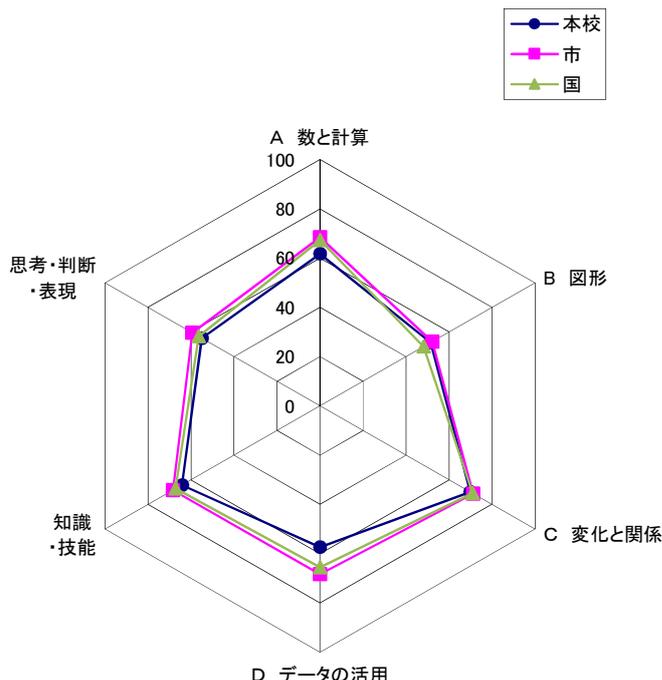
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均をやや下回っている。 ○正しい漢字を使って分を書き直す問題の正答率が高い。日々の学習の中で繰り返し漢字の学習に取り組んできた成果であると考えられる。 ●日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題の正答率が低い。謙譲語や尊敬語などを正しく使い分けることに課題が見られる。	・日常生活において、話す相手や状況に応じた適切な言葉遣いを意識させることで、敬語を正しく使えるようにしていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうかを見る問題の正答率が低い。各々の文章が原因を表しているのか、結果を表しているのか、相対的に判断することに課題があると考えられる。	・文章を読む学習活動の中で、文章と文章を比較し、どの文章が事例を表すのか、原因を表すのか、結果を表すのかを意識して考えさせるような場面を多く設定し、文章の構成を理解できるようにさせる。また、多くの文章に触れる機会を増やすことで、語彙力をつけ、表現力の向上を図っていきたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることが出来るかどうかをみる設問の正答率が低い。学習や日常の中で相手が話した内容をよく理解しないまま、話を進めている可能性があり、相手を理解しようとする姿勢に課題があると考えられる。	・スピーチや意見交換する時には、相手の言いたいことが明確に分からない時には質問をする時間を設け、相手の意見を深く理解するためには、目的や意図に応じた質問をすることの必要性を感じられるようにしていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を大きく下回っている。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが出来るかどうかをみる設問の正答率が低い。データや条件を見て、それらに応じた内容を書くことに課題があると考えられる。	・条件付き作文の学習機会を意図的に設定し、「条件に合わせて書く」ということに抵抗を無くしていくことが必要であると考えられる。日ごろの学習において、自由作文だけではなく、文字数や場面設定など、条件を指定して書くという活動を多く取り入れていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問の正答率が低い。資料から分かること、そこから自分の考えを簡潔にまとめることに課題があると考えられる。	・文章の中から中心となる語や文を見つけて話を要約し、そこから自分の考えをまとめる学習に多く取り組ませていきたい。文章を読み、話の中心を捉え、それに対して自分の考えを述べることに慣れていないことが考えられるため、こういった学習を授業中や朝の時間などにおいて数多く取り入れ、抵抗感を少なくしていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.7	68.4	67.3
	B 図形	51.4	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	69.9	71.2	70.9
	D データの活用	57.4	68.3	65.5
観点	知識・技能	64.2	68.4	67.2
	思考・判断・表現	55.0	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>●3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する問題の正答率が低い。示された日常場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方を式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することに課題が見られる。</p>	<p>・文章からどのような場面かを理解し、必要な情報を図や数直線上に表し整理することで視覚的に捉えられるようにし、それらを基に立式したり自分の考えを説明したりできるようにする。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均を上回っている。</p> <p>●図形の意味や性質について理解しているかどうかを問う設問の正答率が低い。図形の性質が理解できていないことや、面積を求めるための公式が身に付いていないことが課題であると考えられる。</p>	<p>・教科書の図を用いるだけではなく、実際に図形を作図することを重視し、図形の性質の理解を深められるようにする。また、図形に補助線を入れたり一部を動かしたりしながら図形を捉え直して面積を求めるようにするなど、既習事項を基に新たな知識を積み重ねていけるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める設問の正答率が高い。日々の学習で、グラフを読み取る問題に繰り返し取り組んだ成果だと考えられる。</p> <p>●伴って変わる二つの数量が比例関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する設問の正答率が低い。読み取ったことを、式や言葉を用いて説明することに課題があると考えられる。</p>	<p>・授業の中で記述に用いる文例を確認し、練習問題を取り入れることで、グラフや表などから読み取ったことを、式や言葉を使って順序立てて説明出来るようにしていく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>●棒グラフを比較し、見出した違いについて記述する設問の正答率が低い。複数のグラフの情報を適切に読み取り、比較して説明することに課題があると考えられる。</p> <p>●「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る設問の正答率が低い。「以上」「以下」等の用語の定着に課題があると考えられる。</p>	<p>・複数のグラフをどのような視点で比較すればよいかを確認するなど、観点を示していくようにすることで、違いについて説明できるようにしていく。</p> <p>・算数の学習だけでなく、他教科の学習や日々の生活の中で「以上」「以下」等の用語を使うようにすることで、語彙の定着を図っていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合は、ほぼ90%となっており、自己肯定感が高いと考えられる。また、「いじめは、どんな理由があってもいけない」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」とした回答した児童の割合も90%を超えており、人権意識も高い。今後も、個人のをさを認め、よさを生かした活動につなげていけるように支援していきたい。

○「5年生までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用したか」については、全国平均より高い割合で使用していると回答した児童が多い。また、「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と回答した児童の割合も、95%となっている。これは、一人一台端末活用の結果かと考えられ、併せて活用意識も高まりつつある。今後も、ICTを効果的に活用した授業を展開していくとともに、AIドリルを活用した反復学習による基礎基本の定着につなげていけるように指導していきたい。

●授業中への取り組みについては、肯定的な回答が全国平均を上回っており、学習に対して真面目に取り組む意識は高いと考えられる。しかし、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」についての肯定的な回答は、全国平均を下回っている。これらの質問項目は、深い学びの実現にもつながっていくと考えられる。学びを深め、学んだことをつなげて生かしていくことができるようにするために、思考ツールを活用した学習活動を展開して情報や考えを可視化したり、協働的な活動の場を設定して互いの知識や考えを共有し、比較・吟味したりしていく授業展開を工夫していきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的な知識・技能の定着	朝の学習やスマイルネクストドリルの活用による漢字・計算の反復学習や、習熟度別学習やICT機器の活用による個に応じた指導を通して、基礎基本の定着を図る。	漢字や計算に関する問題の正答率が高くなってきている。また、学習の中でICT機器を使うことに対して意義を感じている児童が多かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習内容を見直したり、学習した内容を生かして、次の学習や他教科につなげたり、生活に広げたりすることに対して苦手意識が見られた。	考えを広げたり深めたりするために、協働的な活動の場や振り返り活動の充実を図る。	集団の中で互いの知識や考えを共有し、比較・吟味したりすることによって、新たな視点で物事を捉え、考えを深められるようにする。また、学習内容の広がりや意識できるような振り返りの視点を示すことで、学習と生活の関連を図れるようにする。